

平成18年度東北海区海況予報 第4号

平成18年12月12日

独立行政法人水産総合研究センター 東北区水産研究所

<<今後の見通し(2006年12月～2007年2月)>>

- (1)近海の黒潮の北限位置は、平年並～やや北偏(36°20'N～37°20'N)で推移する。
- (2)黒潮系暖水の北限位置は、近海で平年並で推移する。
- (3)択捉島南東沖合と釧路南東沖合の暖水塊は北東に移動する。三陸沖合の暖水塊は持続する。
- (4)親潮第1分枝の張り出しは、平年並(39°N以北)で推移する。
- (5)親潮第2分枝の張り出しは、平年並(39°N以北)で推移する。
- (6)津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、やや強勢～やや弱勢(143°20'E付近まで)で推移する。

(海況の経過(2006年9月～2006年11月)の特徴)

- (1)近海の黒潮の北限位置は、極めて南偏～やや北偏(35°20'N～37°20'N)と変化した。
- (2)2005年10月に下北半島東方で発生した暖水塊が、2006年9月に色丹島南東沖に達していたが、その後も東方に移動した*。2006年9月に下北半島東方で確認された暖水塊は、北東方向に移動した。2006年4月に常磐沖合で発生した暖水塊は、9月以降北東方向に移動した。11月に三陸沖合に新たな暖水塊が確認された。
- (3)親潮第1分枝の南限は、9月平年並(40°40'N)から、10月に一時的に北偏(41°50'N)したが、11月には平年並(41°20'N)に戻った。
- (4)親潮第2分枝の南限は、9～10月は平年並(39°40'N～39°40'N以南)であったが、11月は確認できなかった。
- (5)津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、9月～10月はかなり強勢であったが、11月は平年並となった。
- (6)東北海区の表面水温は、9月および11月は平年より高め、10月は平年より低めであった。

(現況(2006年11月下旬～12月上旬)の特徴)

- (1)近海の黒潮の北限位置は、平年並(37°10'N)である。
- (2)暖水塊が、択捉島南東沖合約270km*、釧路南東沖合約250km、三陸沖合約350km*にある。
- (3)親潮第1分枝の張り出しは、平年並(41°20'N)である。また、冷水域が三陸沖合に分布する。
- (4)親潮第2分枝の張り出しは、不明である。
- (5)津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、やや強勢(143°20'E)である。

注：現況および今後の見通しは図を参照のこと。

「近海」は146°E以西、「沖合」は146°E以东を表す。

* 表面水温・人工衛星情報による